

[様式 2 (汚染水処理対策委員会に報告し、一般公開となるものです)]

御提案書	
技術分野	⑤ (「技術提案募集の内容」の該当番号を記載願います)
御提案件名	遮水壁
御提案者	青木康彦
<p>1. 技術等の概要 (特徴、仕様、性能、保有者など)</p> <p>⑤. 地下水流入抑制の敷地管理 (遮水壁施工技術、フェーシング技術 等) について、当方の考えをまとめてみました。</p> <p>まず現在、福島原発の問題となっている主要事項は下記 4 項目なると思えます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 溶け落ちた燃料が、どの位置で止まっているのか、どの様な状態になっているのかわからない。 2. 地下水が流入し、回収タンクが汚染水で破たん寸前まで来ていると同時に海洋流出が懸念されている。 3. 現在、尚も放射性物質を放出し続けている。 4. 使用済み核燃料が極めて不安定な状態で放置されている。 <p>以上のような状況中、いかなる対策も小手先の処理に思えてなりません。しかし次の対策が現実的に可能であれば、廃炉に向けての計画は真実味を帯びてくるものと思われれます。</p> <p>架空対策)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 福島原発 I ~ 4 号機のぐるり周りに深さ 50m (熔融燃料よりも深く) の溝を掘り、コンクリート壁 (放射線非貫通厚さ) を設ける。 2. コンクリート壁内総面積の底部にトンネルを横方向に掘り、地下壕 (コンクリート天井) を設ける。これにより地中の原子炉施設は外部と完全遮断となる。※地下水位が流入状態に有、工事には土木専門知識が必要。 3. 上部原子炉施設の遮蔽も完全にコンクリートもしくは鉛で遮断するべく、ドーム型壁を設ける。 4. 後は現状の水位まで常に水を供給し、外部との遮へい循環システムを構築する。 5. これにより仮にも冷温停止になり、廃炉に向けてのスタートが切れることになると思います。 6. この費用は天文学的な数字になると思いますが、それだけの事故が国内に起きてしまっているという事になります。 7. 非現実的な作業なので、専門化の方々も言いたくも言えない現実があると思います。一部専門化の方はラジオ等で言及されているようです。 	

8.是非提案し実現してください。未来の子供のために。

どうぞ宜しくお願い致します。

2. 備考（以下の点など、可能な範囲で御記入いただけますようお願いいたします）

- ・開発・実用化の状況（国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む）

- ・開発・実用化に向けた課題・留意点

- ・その他（特許等を保有している場合の参照情報等）

（備考）技術提案募集の内容（6分野）

- ① 汚染水貯蔵（タンク等）
- ② 汚染水処理（トリチウム処理等）
- ③ 港湾内の海水の浄化（海水中の放射性物質の除去等）
- ④ 建屋内の汚染水管理（建屋内止水、地盤改良等）
- ⑤ 地下水流入抑制の敷地管理（遮水壁、フェーシング等）
- ⑥ 地下水等の挙動把握（地下水に係るデータ収集の手法、水質の分析技術等）